

新クラウドサービスを展開

富士フィルムヘルスケアシステムズ 「Pharma-SEED Link II」

富士フィルムヘルスケアシステムズは、2018年にサービスを開始した「Pharma-SEED Link」を大幅にリニューアルした新オプションクラウドサービス「Pharma-SEED Link II」を17日から提供開始する。オンプレミスとクラウド双方のメリットを生かした安心・安全な電子薬歴システムとなっており、レセコン一体型電子薬歴システム「Pharma-SEED EX」と「Pharma-SEED Link II」をセットにし、「ハイブリッド型電子薬歴システム」として販売をスタートさせる予定だ。

レセコン一体型電子薬歴システム「Pharma-SEED EX」は、薬局経営を支援する機能として、①かかりつけ薬

局支援機能②在宅業務支援機能③収益率向上支援機能——を強化し、安全できめ細やかなサービスを求められる薬局業務と経営を両面からサポートするクラウド活用の電子薬歴システムとなっている。

今回同システムとセットで新発売する「Pharma-SEED Link II」では、接続端末数が無制限となっており、在宅支援端末としての活用はもちろん、薬局内の薬歴端末運用として薬剤師1人当たり1台での運用が可能になっている。オンプレミスとクラウドの双方のメリットを生かしたハイブリッド型であることから、自然災害による緊急時など、もしもの時のBCP対策にもつ



ながっている。また服薬指導についても、服薬支援ナビゲーションで的確な服薬指導をサポートできる。処方変更内容や薬品ごとに指導すべき項目を表示し、服薬指導に必要なデータベースも搭載しているため、細やかな指導の支援が可能だ。薬歴記録支援機能も充実しており、薬剤師業務の大幅な効率

化を支援する。

さらに同社は、富士フィルムグループであるメリットを生かし、同グループが提供している一包化監査支援システム「PROOFIT 1D II」(富士フィルム富山化学製)とも連携し、薬剤の一包化ニーズにも対応している。監査業務の安心・安全にも貢献していく。

対物から対人への移行を支援

東邦薬品「FutureENIF-WEB」

顧客の声を反映しシンプル操作による医薬品の発注に特化したシステムとして、東邦薬品が5月にリリースしたウェブ発注システム「FutureENIF-WEB」だ。

ウェブ画面からログインをして使用。オプションの専用バーコードスキャナーを使用することにより、GS1データバーからもスキャンして発注ができるため、包装箱を廃棄した場合でもバーコードからの発注が可能。他にも商品名、一般名、漢方番号から商品検索ができ、採用品目は一覧の上位に表示されるため、商品選択が簡単なのが特徴。

また、1回でもマウスのクリックを減らしたいという得意先の声を実現するため、連続した商品名検索がしやすい工夫も凝らしている。レセコンとの連動や需要予測自動発注などの機能は

ないが、発注数量を入力後、カートに入れ、送信する商品を選択してOKボタンをクリックするだけで発注が完了する。

タブレット端末でも使用でき、通信環境(推奨ブラウザ・Google chrome)さえ確保されていれば在宅訪問先からも発注が可能のため、発注から納品までのタイムラグを短縮。医薬品医療機器総合機構(PMDA)のサイトにリンクしており、ワンクリックで最新の添付文書を開覧することもできる。

発注するタイミングがますますでない場合、例えば「明日の午前」「来月初め」といったように、日時ごとのカートに予め登録しておくことができる。

ENIFは医薬品発注・情報端末機として1997年に誕生し、関連する多様なサービス・機種を展開してきた。2019年にSIMカードを内蔵した端

末「Future ENIF

(フューチャーエニフ)」をリリースし、現在5000軒を超える得意先で採用されている。インターネットによる高速通信と大容量データ通信、調剤包装単位GS1データバーに対応し、調剤棚から移動せずその場で発注送信ができるため、FAXや電話発注に比べ、発注作業に時間を取られない。

東邦薬品は発注システムのラインナップとして、「ねっとde ENIF」も提供しているが、「Internet Explorer (IE)」の環境でのみ動作するため、IEのサポート終了に伴い、9月末でサービスを終了したことから、「FutureENIF-WEB」をリリースした。得意先の声を最大限に反映し開発さ



れたこれらのサービスによって、対物業務から対人業務へのシフトをサポートする。

調剤薬局の業務改善に、発注管理と在庫管理を兼ねる「ミザル」、ウェブ版の発注に特化した「FutureENIF-WEB」などを揃え、従来のアナログ通信タイプの端末からの切り替えを進めることにより、かかりつけ薬局・薬剤師の機能向上を支援する方針だ。

薬歴の入力時間を大幅に短縮

アクシス「メディクス」

アクシスは、国内初となるクラウド型電子薬歴「メディクス」を提供し、薬局が抱える様々な課題解決をサポートしている。クラウド型電子薬歴であるため、インターネット環境があれば時間や場所を選ばず、薬歴の確認や記載を行うことができ、パソコンだけでなくタブレットPCなど多様な端末で利用が可能。薬局外での訪問調剤、出張先でも使える薬歴システムとなっている。

持ち運びができるだけでなく、薬剤師の業務手順や使いやすさを第一に機能を設計しており、薬歴入力時間を大幅に短縮しているのが大きな特徴だ。メディクスを導入するチェーン薬局の調査では、薬歴記載時間が導入以前は1件につき平均3分かかっていたのが平均1分と、3分の1に縮まったとの報告もある。年間休日120日8時間勤務の場合、約40日間の時間短縮に

つながり、残業削減や服薬指導の質向上が期待される。

服薬指導・薬歴作成に必要な頭書きや処方比較、過去の指導内容が一つの画面で確認できると共に、服薬指導から薬歴作成を迅速に行うために入力サポート機能を搭載。患者の生活習慣や嗜好(頭書き)、処方された薬をもとに、患者の症状に応じた指導例文が2万点用意されているほか、よく使う言葉や文章は薬局オリジナルの指導文として簡単に登録できるため、例文をクリックするだけで入力が可能となる。

前回と今回処方方の差分についても、1クリックで薬歴に自動入力でき、患者の前回来局時の服薬指導内容から今回の服薬指導で必要な確認事項を忘れないようシステムが注意喚起して、継続的な服薬指導をアシストしている。

従来のオンプレミス型の電子薬歴は

薬歴のデータが蓄積されると動作スピードが遅くなり、検索に時間がかかることが指摘されていたが、メディクスは最先端の高速化技術を取り入れているため、10年以上の薬歴データを蓄積しても操作レスポンスの低下がないのも使いやすさを支える。

複数店舗の薬歴を管理できる機能も搭載しており、特に店舗数が多いチェーン薬局には好評だ。店舗ごとの来局ピーク時間や地域別データなども集計できるほか、グループ店舗で「未入力」や「保留」になっている薬歴の数を集計し、見える化することで薬歴未記載を未然に防ぎ、監査や指導にも役立つ。

そのほか、訪問調剤や24時間対応、処方チェック、疑義照会にも対応。オ



電子薬歴 Medixs[®]

プション機能には、病名登録、処方からの逆引きによる「疾病監査機能」で処方チェックする機能や、OTC医薬品と処方薬の併用薬監査機能、DSU情報が発出された医薬品をチェックする機能、服薬中のフォローアップ機能、オンライン服薬指導などを有し、幅広く薬局のニーズに対応している。



2022年度「調剤報酬改定」の要点をわかりやすくまとめて解説

調剤報酬実務必携

2022年4月版

北海道医薬総合研究所 編著

A6変形判/102頁/定価500円+税10%



詳細はこちらから

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/